

### 3 巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループにおける 検討結果について

令和 4 年 8 月 25 日

日本スポーツ協会は、「日本体育協会スポーツ推進方策 2018(以下、推進方策 2018)」の中で、「国体が(中略)3 巡目開催を迎えるにあたり、2022 年までにプロジェクトを設置」することを定め、そのための「情報収集と大会のあり方の見直し」を宣言している。同様にこの方策では「より詳細な内容や取り進め方法を検討する」ワーキンググループ(以下、WG)の設置も謳われており、令和元年 8 月 29 日開催の「令和元年度第 2 回国民体育大会委員会」においてその稼働が認定されたのは周知の事実である。

「3 巡目国スポ在り方事前検討 WG」と銘打ったこの会議体は、これまで 11 回の話し合いを続け、3 巡目の国民スポーツ大会(以下、国スポ)の開催に向け、今後設置されるプロジェクトにおいて検討すべき、課題の整理や提言をまとめるに至った。2 巡目がまだ道半ばというのに、早過ぎはしないかとのそしりを受ける恐れもあるが、国スポは 2035 年から 3 巡目の大会が始まる予定で進んでおり、開催地の準備期間を考慮すれば、10 年前の 2024 年には大会の在り方を決定する必要があると考えたからである。

話し合いの第一段階は、別紙「3 巡目国民スポーツ大会在り方事前検討 WG におけるこれまでの検討内容」に示したように、検討すべき項目原案の作成にあった。その後、第二段階ではこの原案をもとに、国スポを支えるステークホルダーに対してアンケート調査を依頼。頂戴した回答を十分にふまえた上で、第三段階とも言える「今後検討すべき事項」について整理した。

今般の検討に際し、実施したアンケートでは「国体の意義」に始まって多角的な観点からあまたの意見を頂戴したが、一様に同意を得られた回答に混じって賛否が分かれる結果になったものもあった。「賛成」「反対」の意見に加えて具体的な文言を示しながら自説を展開された回答には、WG のメンバー一同深い感銘を受けることも少なくなかった。

なお、本アンケートは国スポを開催する都道府県スポーツ部局や中央・都道府県競技団体、選手の派遣元となる都道府県体育・スポーツ協会を対象に実施されたが、参加する選手や選手を応援する観客の立場からの意見・要望は含まれていない。現在検討されている「JAPAN GAMES」構想から見てもより多くのステークホルダーに対し、魅力ある国スポの形を模索していくことが求められる。

国民体育大会は、この 70 余年、スポーツ振興・推進体制の確立とスポーツ文化の形成に総合的に寄与してきたが、社会の環境は激しく変化している。少子高齢化や働き方改革の波は、スポーツの世界にも容赦なく押し寄せ、楽しむスポーツ、競うスポーツ、見せるスポーツそれぞれに時代に応じた変化を要求しているのは、誰の目にも明らかである。そんな中で「推進方策 2018」が目指す、「する」「見る」「支える」を実現する国スポとはいかにあるべきなのか。本 WG での検討結果を踏まえ、プロジェクトにおいて建設的で果敢な検討がなされることを期待するものである。

3 巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループ

### 3 巡目国民スポーツ大会在り方事前検討 WG におけるこれまでの検討内容

#### 1. 3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け

これまでの目的・性格・コンセプト・位置付けという枠組みが非常に分かりづらく、また各項目に重複した記載内容などもあったことから、3 巡目に向けて新たな枠組みとして整理をしながらも、「スポーツ宣言日本」や「21 世紀の国体像」を念頭に置き、3 巡目の国スポについて、以下の通り整理することとした。

##### ➤ 果たすべき役割

これまでの目的と性格を統合した形で、国スポそのものの存在意義として定義。

- 国スポを通じて、社会をより豊かにすることに貢献する
  - ・ 国スポは、あらゆる人々のスポーツとの多様な関りを推進し、スポーツの価値を高め広めることに貢献します。
  - ・ 国スポは、「スポーツ宣言日本」が目指す社会像を実現することに貢献します。

##### ➤ 目指す方向（コンセプト）

これまでのコンセプトと同様の項目となり、これからの中長期的な目標と定義。様々な観点からの持続可能性を目指すといった観点、ふるさとの活性化の観点から新たなコンセプトとして次の 2 点を提示。

- ① 国スポは、サステナブル（持続可能）なスポーツ大会を目指します
  - ・ 中長期的なアスリートの育成・強化
  - ・ 多様で豊かなスポーツ享受の促進
  - ・ 最適にして柔軟な大会運営と国スポレガシーの創出
  - ・ 社会課題解決への貢献
- ② 国スポは、ふるさとスポーツ力の発展を目指します
  - ・ ふるさと（都道府県）のアスリートの育成・強化と指導者・競技役員等の養成
  - ・ ふるさと（都道府県）におけるスポーツをはじめとした多様な文化との融和
  - ・ ふるさと（都道府県）のスポーツ環境の醸成

##### ➤ 大会の位置付け

大会そのものの位置付け、他の大会に対する国スポのポジショニングを示すものと定義。3 巡目国スポの「果たすべき役割」と「目指す方向（コンセプト）」を踏まえ、次の 4 点を提示。

- ① 都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会
- ② 将来性豊かなアスリートの育成・強化を行う大会
- ③ 世代・競技間を超えた交流を育む大会
- ④ 地域課題解決のきっかけとなる大会

#### 2. 大会実施方法

3 巡目国スポの「果たすべき役割」と「目指す方向（コンセプト）」及び「大会の位置付け」を踏まえるとともに、これまで国体が毎年継続して開催され、我が国のスポーツ推進に大きく寄与してきたことを考慮し、以下の 3 点については継続して実施。

- ① 毎年開催
- ② 都道府県対抗
- ③ 開催地のフルエントリー

以下の 3 点については、サステナブルな大会の実現に向け、方式の変更も視野に入れ検討を行う。

- ④ 開催期間
- ⑤ 開催地域
- ⑥ 開催地決定方法

### 3. 各種検討事項

#### 3 巡目国スポの柱

3 巡目国スポでは、「ふるさとスポーツ力」「柔軟性の追求」「サステナブルな大会」を改革の柱として掲げながら、以下に記載の項目について検討を進める。

##### a. 大会規模

###### (1) 大会規模の見直し

- ・ 国体改革 2003 で示されている「大会規模の適正化」を考慮しつつ、各競技の特性を踏まえるとともに、競技会の充実・活性化の観点から、開催地の実情を踏まえ、各競技会の適正規模にて実施をできるように改めて見直しを行う。

###### (2) 実施競技

- ・ 国スポ実施競技は、これまで同様に「正式競技」「公開競技」「特別競技」「デモンストレーション」を前提に検討を進める。
- ・ 「正式競技」「公開競技」については、都道府県対抗とする。
- ・ 実施競技数、選定方法については、大会規模と併せ引き続き検討を進める。
- ・ 開催地選択競技の導入について検討を進める。
- ・ 競技によっては固定（定点）開催を視野に検討を進める。

###### (3) 正式競技の実施形態

- ・ 「正式競技」はこれまで同様に「実施競技選定」に基づき「毎年実施競技」及び「隔年実施競技」とし、実施することを前提に検討を進める。

##### b. 大会の開催時期

###### (1) 大会の会期

- ・ 現行、本大会 11 日間、冬季大会 5 日間と定めている大会会期の期間について、会期の延長や短縮、また、開催地が競技会場や宿泊施設等の実情に応じて柔軟に会期を設定できるようにすること等について検討を進める。

###### (2) 各競技会の開催時期

- ・ 施設の状況等によっては、開催都道府県と当該競技団体の協議により、大会会期内で柔軟に実施することや、各競技会の実情に合わせて分散して開催をすること等について検討を進める。

##### c. 各競技の施設等

###### (1) 施設（競技会場）の弾力的運用

- ・ 既存施設の有効活用に努め、施設の新設等を行う場合は大会開催後の有効活用を考慮し、必要最小限にとどめるべく、既存施設の弾力的運用を促進するための方策やルール等の検討を進める。

###### (2) 特殊競技に関する施設活用

- ・ 開催都道府県に既存施設がない特殊競技については、近県又はブロック内の既存施設の活用や固定開催等を含め検討を進める。

##### d. 総合成績

###### (1) 総合成績決定方法

- ・最後まで優勝都道府県が分からない、新たな成績決定方法の検討と競技間得点格差の是正の検討を進める。
- (2) 順位の速報性
  - ・リアルタイムでの順位の可視化が可能となるよう、方策の検討を進める。
- (3) 冬季大会と本大会の成績の取扱い
  - ・冬季大会と本大会の合算による総合成績の取扱いについて検討を進める。

#### e. 総合開閉会式

- ・総合開閉会式の実施規模（簡素化）や屋内開催等について検討を進める。

#### f. 大会経費の確保

- (1) 大会参加負担金
  - ・適正な受益者負担に基づき、大会参加負担金の適正金額について検討を進める。
- (2) 中央競技団体負担金
  - ・冬季大会で導入している中央競技団体負担金について、本大会への導入を含め検討を進める。
- (3) 入場料金
  - ・各競技会における入場料金の設定について検討を進める。

#### g. 大会評価指標の策定

- ・各大会を客観的に評価し、継続的な大会運営を目指すための指標の作成を検討する。

#### h. 開催地の選定

- (1) 新たな立候補制の展開
  - ・持ち回り開催を廃止し、開催を希望する都道府県の「立候補制」の導入について検討を進める。また、立候補制を導入する場合、開催インセンティブについて併せて検討を進める。
- (2) 広域開催
  - ・開催都道府県において当該競技会を行うための十分な施設・設備等の確保が困難な場合を想定し、単一都道府県開催のみならず、複数都道府県合同開催やブロック開催とすること、また複数都道府県合同開催やブロック開催とする場合、そのルールや仕組みについて検討を進める。

#### i. 参加資格

- (1) 大会参加選手の年齢
  - ・参加下限年齢の設定について、関係団体等も交え検討を進める。
- (2) 外国籍選手の参加
  - ・外国籍選手の参加機会の確保について検討を進める。
- (3) 国内移動制限
  - ・現行の2大会の移動制限期間が適正であるかを含め検討を進める。
- (4) 新たな参加区分の検討
  - ・大学の所在地や所属クラブの所在地等といった新たな参加区分の制定可否について検討を進める。
- (5) ふるさと選手制度の拡大

- ・少年種別年齢域への導入や成年選手はふるさと選手制度の活用義務化といった、ふるさと選手制度の活用促進策について検討を進める。

#### j. 広報・マーケティング活動の展開

##### (1) みるスポーツとしての価値向上

- ・都道府県対抗という郷土性等を活かし、「みるスポーツ」としての、国スポのブランド価値向上策について検討を行う。

##### (2) 競技日程の編成

- ・入場料徴収を念頭において、観戦好適時間を設定するなど競技日程の編成や運営について検討する。

#### 4. 今後検討すべき事項

アンケート調査の結果も踏まえ、上記内容に対する主な課題は以下の通りとした。

- 「3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け意義」を十分に周知・説明し、国スポ開催の意義についてより多くの理解を得ること。
- 「3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け意義」を踏まえ、標準化すべき大会の中核要素と柔軟性を追求すべき要素を精査すること
- 大会実施方法について、国スポの軸となる考え方を維持しつつ、これまでの大会との違いをどのように表現するか。
- 国スポをする人(参加選手)、支える人(開催県、派遣元など)だけでなく、見る人にとっても魅力ある大会とすること。

#### 5. 終わりに

このWGの議論は、「プロジェクト」が多角的で未来志向の設計図を描けるようにと、近過去からこれまでの基本情報の点検に重心を置きながら展開されてきた。三巡目のスタートはこの先 10 余年後のことである。科学の進歩と社会の変容をそれなりに見極めながら、実り多き議論の進展を期待したい。

以上

#### 参考

##### WG 班員名簿

No.	役割	氏名	性別	所属	No.	役割	氏名	性別	所属
1	座長	山本 浩	男性	法政大学	6	班員	舟橋 弘晃	男性	中京大学
2	班員	飯坂 尚登	男性	秋田県スポーツ協会	7	班員	星野 一郎	男性	日本卓球協会
3	班員	高崎 淳也	男性	スポーツ庁	8	班員	森丘 保典	男性	日本大学
4	班員	滝澤 幸孝	男性	日本パラスポーツ協会	9	班員	柳谷 直哉	男性	JOC
5	班員	野友 宏則	男性	茨城県教育庁学校教育部保健体育課	10	班員	山室 元史	男性	インターブランドジャパン

※2020.2～2022.8設置